

古都奈良をフィールドにした異学年合同奈良めぐり

【1・2年合同奈良めぐりでの多様な7つの地域学習コース】

【奈良教育大学附属中学校】

1. はじめに

奈良教育大学附属中学校は、「世界遺産・古都奈良の文化財」を見渡す奈良市佐保田の丘に立地する全校生徒400名ほどの中規模校です。2008年からユネスコスクールに加盟し、奈良教育大学と附属学校（幼・小・中）のすべての校種がユネスコスクールとなっています。本校では昔から「奈良めぐり」という奈良の寺社・史跡や奈良町などで現地学習を行ってきました。5年程前に、過去から学ぶだけでなく現在の地域課題にふれ、持続可能な未来社会を創ることを視野に異学年合同（1年生と2年生）行事へと改革を進めました。奈良の世界遺産の地で、新たな奈良めぐりを展開しています。「1・2年合同奈良めぐり」は1年と2年の教員がペアを組み一つのコースを担当するのが特徴です。生徒も2学年が一緒に学びます。今年も7コースに分かれ、創造性あふれる多様な学びが生まれました。

2. 教育目標

伝統的に受け継がれてきた5つの教育目標を元に、ホールスクール・アプローチの手法でESDに取り組んでいます。ホールスクール・アプローチとは、学校の教育活動のすべての面でESDに取り組む方法です。

《5つの教育目標》

- 一、真理を求め、平和を願い、しあわせな世の中を築く人間に。
- 一、科学と技術の基本を身につけ、すすんでもものの本質をきわめる人間に。
- 一、自由と責任を重んじ、粘り強く現実を切り開く人間に。
- 一、みんなのいのちや願いを大切にし、あい励まし合い助け合う人間に。
- 一、豊かなところとたくましいからだをもち、明るく健やかに生きる人間に。

3. 教育委員会・学校での取組

2023年度「1・2年合同奈良めぐり」では右の7つのコースが実施されました。昨年度のコースを改良したコースもあれば、新たに一から開発したコースもありました。各コースの計画は、担当教員のアイデアや生徒リーダーとの話し合い、さらに現地の察を経て作成されていきます。学びのデザインを工夫し、地域のコンテンツや人を探したり、様々な情報を集めたり、今年も地域の特徴を活かしたオリジナリティあふれるコースが創られました。

《2023年度実施された7つのコース》

- A「受け継がれる美と音—奈良と伎楽—」
- B「奈良の雑誌を読み解く」
- C「奈良の水産業!？」
- D「大和茶の魅力を再発見しよう」
- E「脈々と受け継がれる奈良の文化財や技術にふれる」
- F「春日山をシカが喰う!？」
- G「先輩の働く姿・身近な世界遺産」

例えばAコース「受け継がれる美と音—奈良と伎楽—」では、奈良に伝わる伎楽・雅楽などの伝

統芸能に着目しました。事前学習として藤森神社での雅楽鑑賞や雅楽面の制作体験を行い、当日は奈良県立博物館の見学やワークショップ、春日大社での聞き取りなどの活動を行いました。生徒たち化を継承することの難しさや課題に気づき、自分たちが文化の担い手であることに向き合い考えるようになったようです。Bコース「奈良の雑誌を読み解く」では、奈良の地域の魅力を「雑誌」という手法で広めることを目的にしました。事前学習では、奈良の地域情報誌の編集の方から講演をしていただいたり、自分たちで取材対象を探し、アポイントを取ったりしました。当日は現地で店舗・施設の取材活動に伺い、インタビュー活動や写真撮影などに挑戦しました。その後の制作では GIGA スクール構想で配布された一人一台端末を駆使して、生徒達は見事に雑誌編集作業をしていました。編集者の視点で奈良を見ることで、気がつかなかった奈良の魅力に気がついたり、他者にわかりやすく伝える方法についても深く学ぶことができました。多たち点を持つことの重要性に気がついた生徒もいたことから、雑誌制作者の視点で地域を見ることはたいへん意義のあることとわかりました。実際に店舗を運営されている方のインタビューでは、伝統的な奈良の良さを活かしながらも新しいものを取り入れながら経営されていることや、多くの方に奈良のことを知ってもらいたいという願いを聞くことができました。



A コース、春日大社での学習の様子

今年の7つのコースに関わっていただいた方・施設・団体の数は50を超えました。たくさんの方に支えられた行事であることがわかります。奈良の地域の教育力の高さを感じました。その分、生徒たちに深くひっかかり、実際の社会課題に向き合う生きた学習になりました。



A コース まとめのスライド

B コース まとめのスライド

4. おわりに

私たちの奈良は多くの文化財に囲まれています。文化財を保存・継承するには、人がその価値について十分に理解していることが求められます。協力いただいたある施設の方との話で、「少子化の中、未来の人材を育てることがより大切です。」というコメントに出会いました。生徒が現地の方の思いにふれたり、実際に現場に赴いたりしながら、リアルな体験をすることで、地域の文化財を守る感性が磨かれていくのではないかと期待します。身近に文化財がある原風景を生徒らに体験させることや、今文化財の保存に携わる方と出会うことを通して、未来へ文化財を継承する態度が養われたらと思います。